

『夕鶴』の劇作家

きのしたじゅんじ

木下順二

Kinoshita Junji



大正3年(1914)～平成18年(2006)

東京生まれ

父の郷里が玉名。小学校高学年から第五高等学校卒業まで熊本で過ごす
劇作家

東大英文科で演劇を学び、昭和22年(1947)に処女作『風浪』^{ふうろう}を発表して以降、活発な創作活動が続ける。『オットーと呼ばれる日本人』などのリアリズム演劇のほか、『彦市ばなし』などの民話劇も手がけ、戦後の演劇界を代表する存在となる。つう役に山本安英^{やまもと やす え}を得た『夕鶴』は全国で千回を超える上演を行い、国民的演劇作品となった。『木下順二評論集』のほかエッセイ『ぜんぶ馬の話』など幅広い著作がある。